

Infinity Vol.11

～大学と地域の協働力は無限大∞～

2022.10.10発行

発行元

龍谷大学
社会共生実習支援室

〒520-2194

滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

龍谷大学瀬田キャンパス内

社会共生実習支援室

TEL:077-544-7230 FAX:077-543-7615

E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp

「大学(社会共生)に何が出来るのか
—文化財から“マネー”を創出する—
大覚寺(京都)にて

夏期オープンキャンパスにて活動発表をおこないました

8月6日(土)

『大学は社会共生に何が出来るのか—文化財から“マネー”を創出する—』

文化財を活用しマネーの創出法を考える当該プロジェクトでは、フィールドワークの様子や、取り組みなどを発表しました。6月に行った長浜市内でのフィールドワークでは、受講生を「ガイドつき」「事前学習あり」「事前学習・ガイドともになし」の3つのグループに分けて観光名所を訪れるとどのような違いがあるかという実験的な試みもおこないました。その結果、長浜八幡宮や大通寺は、建てられた背景や建物の仕組みなどの説明がないと、見ただけで終わってしまい、満足することが難しいということがわかったという気づきなどを発表しました。

『多文化共生のコミュニティ・デザイン—定住外国人にとって住みやすい日本になるには?』

多文化共生まちづくりの問題解決のための活動をおこなっている当該プロジェクトでは、グループに分かれて3か所の活動先に行き、在日コリアンの方や外国人の方々から貴重なお話を聞くことを中心に前期は活動しました。東九条にある「コミュニティカフェほっこり」では、朝鮮をルーツに持つ利用者の方からお話を聞くことができました。受講生は「差別を受けてこられたリアルなお話を聞き、この多文化社会で多様な人々と共生して生きていくために、お互いが求めていることをコミュニケーションを取りながら知っていくことが重要だと感じた」との感想を述べていました。



8月7日(日)

『地域エンパワねっと・大津中央』

当該プロジェクトでは、地域の課題を住民の方とともに見つけ出し、課題解決に向けて活動しています。前期は自治連合会の元会長の方からお話を伺ったり、中央学区のまち歩きをおこない、地域について知ることを中心におこないました。オープンキャンパスでは、過去に実施した企画を担当教員より紹介しました。コロナ禍でイベントが少なかった6年生の思い出作りのために企画した「スカイランタンイベント」や使わなくなった絵本を回収し、地域の子どもたちが読めるよう企画した「絵本館プロジェクト」など地域の方たちにご協力いただきながら、学生たちが自ら企画し、実施までおこなったことをお伝えしました。

『自治体をPRしてみる!』

今年度は、大阪府門真市と滋賀県高島市の自治体の広報現場に入り、映像作品の制作に取り組んでいます。担当教員からは、PRの意味についてや、PRとは良い部分を紹介することではないということ、PR作成時にはまず既存のイメージを壊すところから始めることなどをお伝えしました。昨年度の受講生が作成したPR動画も紹介し、来場者に興味を持っていただけた様子でした。



8月20日(土)

『コミュニティの情報発信!レク龍プロジェクト』

滋賀県レクリエーション協会のご協力のもと、協会の広報誌作成などに受講生が携わり広報活動について実践をとおして学ぶ機会を設けています。魅力的な写真の撮影の仕方やSNSを活用しての発信方法についても学び8月25日(木)に大津市真野浜水泳場でおこなわれる、受講生が企画したイベント「フロートレース」に向けての準備の様子も発表しました。

『お寺の可能性を引き出そう!—社会におけるお寺の役割を考える—』

近年、こども食堂などの社会活動の場となっているお寺の可能性の広がりについて考える当該プロジェクトでは前期に京都府や滋賀県内にあるお寺に行き、日曜学校や食堂の取り組みにも参加しました。受講生は、お寺に対して「固い」「真面目」といったイメージを持っていましたが、意外とオープンで明るく、子どもや若者向けの活動もあるということを知ったとの気づきを発表しました。後期には学生が活動を企画し、お寺で実施する予定です。



8月21日(日)

『障がいをもつ子どもたちの放課後支援』

受講生2名が、「障がいをもつ人との共生社会の実現」をテーマに、実際の実習で学んだことを中心に発表しました。プロジェクトでは「放課後等デイサービス ゆにこ」にて1人につき5~9回の実習を前期にさせていただきました。実習では子どもたちと遊びや学習の支援を通じて関わり、「(子どもたちの)可能性を自分たちが壊さない」など、子どもたちの自主性を大切にされている施設の姿勢や関わり方から大きな学びを得たことを発表しました。

『農福連携で地域をつなぐ—地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて』

当該プロジェクトでは、障がいを持つ人たちが農業に携わる「農福連携」事業を進めるNPOの活動に参加させていただいています。担当教員からは「農福連携」について、また、栗東市にある実習先「おもや」が取り組んでおられる活動の紹介をした後に、具体的な活動内容の発表をしました。受講生たちは毎週、実習先で障害を持つ利用者の方々と野菜の収穫や発送作業などに取り組んでいます。また、定期的に開催されているファーマーズマーケットに稲わらのリースや米袋をリユースしてトートバッグを作成するというワークショップを出店した時の様子も発表しました。後期には農福・地域連携上の課題発見、解決方針案を考えていく予定です。

受講生インタビュー

今年度「社会共生実習」を受講している学生に、受講しようと思った理由やプロジェクトの内容などを聞きました。このプロジェクトに入ったきっかけは？

- ①現在、このプロジェクトではどのような授業を受けていますか？
- ②受講して身についたスキルは？
- ③部活やアルバイトと社会共生実習の活動時間の調整はどのようにしていますか？
- ④今後の目標やチャレンジしたいことは？



障がいをもつ子どもたちの放課後支援
現代福祉学科 2年生
西村嘉記さん

児童対象のボランティアをしているので障がいをもつ子どもにも接してみたかった。将来は福祉職を目指している

- ①放課後等デイサービス施設で子どもたちと遊びながら、関わり方を学んだ。子どもたちが社会に出た時に困らないよう社会的なルール等もしっかりと教えるスタッフの方々から得られることは非常に大きかった。
- ②次は高齢者の方たちとも関わってみたい。その上で、将来進む分野を決めたいと考えている。

地域の希薄化が進み、地域のあり方について問題意識を抱いていた。在日外国人の方たちの困りごとなども知りたいと思って

- ①実習先に行き、在日韓国人や在日朝鮮人の方からお話を聞いている。辛い過去の経験も話してくださり、勉強になっている。
- ③アルバイトはしているが、夕方以降の勤務なので実習との調整はできている。
- ④高校生の時はボランティア活動もしていたので、児童福祉関係のボランティア活動もしてみたい。



多文化共生のコミュニティ・デザイン～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～
現代福祉学科 3年生
小野万葉さん



コミュニティの情報発信！
レク龍プロジェクト
CM学科 3年生
荻野幸智さん

スポーツやレクリエーションが好きなのと、広報の勉強も面白そうだと思って

- ①実習先の広報事業を、実践を通して学んでいる。現在は、夏におこなう受講生企画のイベントに向けて、SNSで情報発信をおこないながら準備を進めている。
- ③アクティビティのインストラクターのアルバイトをしている。実習が土日にある時もあるが、時間調整はできている。

もともとメディアに興味があり、昨年度の開講時に受講を決めた。さらに技術的にも極めたかったことが継続受講の決め手に

- ①昨年度は大阪府門真市のPR動画を作成したが、今年度は滋賀県高島市の棚田サミットのPR動画を作成している。
- ②撮影や編集作業だけでなく、外部への連絡や交渉などを経験したことで、涉外スキルが身についた。



自治体をPRしてみよう！
社会学科 4年生
早藤涼花さん



地域エンパワねっと
CM学科 3年生
宮地喜恵さん

コロナ禍で、1・2年生の時に実習ができず、今年は何かしたいと思った。昨年度の活動内容に興味を抱き受講を決めた

- ①現在は大津の町の歴史を学んでいる。知らないことが多くて、面白い。
- ②担当教員より「人と人の繋がり」を大切にしよう教えられている。日頃から「相手のために」ということを意識している。
- ④後期は学生主体で企画を考え実施する予定なので、積極的に人と関わり、学生生活を有意義に過ごしたい。

社会貢献活動に興味があった。あまり知らない分野の実習も面白そうだと感じて

- ①前期は、社会貢献活動をしているお寺に行き、実際の活動内容を学んだ。また、後期にはお寺にもご協力いただき学生が考えたイベントを実施する予定をしている。受講生同士で興味のある活動を話し合い、どのようなものにするか考えている。
- ②地域に開かれたお寺が多く、各お寺の理念や考えを知ることができ、お寺へのイメージが変わった。
- ③アルバイトはスケジュール調整しやすいように単発でおこなっている。



お寺の可能性を引き出そう！—社会におけるお寺の役割を考える—
現代福祉学科 2年生
下山萌衣さん



大学は社会共生に何ができるのか—文化財から“マネー”を創出する—
社会学科 3年生
片岡克望さん

マーケティングに興味があり、それに近いことが学べると思った。昨年度、違うプロジェクトで学んだことも活かしたいと思い、このプロジェクトを選んだ

- ①大津の観光資源や文化財を活用するにはどうすればいいのかを勉強している。フィールドワークに行った際に、昨年学んだPRについての視点からも見ることができている。
- ②今までであればただ見て回っていた文化財に対しても様々な疑問や課題点などを考えながら見るようになった。
- ③ボランティア活動もしているが、学業を優先させながら時間調整もできている。

親戚が実習先での活動内容と似たことをしているため、もともと興味があった

- ①農作業をおこなっているが、内容は毎回異なる。つるむらさきの苗や黒豆を植えたりもしている。また、ファーマーズマーケットなどのイベントでは米袋を再利用して鞆を作成するワークショップもおこなった。
- ②イベントがある際には事前準備に必要なことなどを先に見越して行動できるようになった。
- ③障がいを持つ方たちと一緒に作業することで話す機会も増え、自立して生きていこうと思われている方が多いことも知ることができた。この実習をとおして、障がいを持っている方への考え方に変化が出てきた。



農福連携で地域をつなぐ—「地域で誰がいきいきと暮らせる共生社会に向けて」
社会学科 3年生
岩本優さん

Webサイト・SNS では最新の情報を随時更新中♪



社会共生実習
Webサイト



社会共生実習
Twitter



社会共生実習
Instagram



社会共生実習
Facebook



エンパワ
Twitter



坂本70's i1+a
Facebook

誌面のアイデア募集！

- ・読んでみたい記事
 - ・知りたい情報 etc…
- ご意見・ご感想もお待ちしております。
社会共生実習支援室までお寄せください。